



日本植物病理学会ニュース 第96号

(2021年11月)

【学会活動状況】

1. 部会開催報告

(1) 関東部会開催報告

令和3年度日本植物病理学会関東部会は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、昨年度に引続き関東部会プラットフォーム上でのWEB開催となった。ただし、昨年度はeポスター配信であった一般講演を、今年度はオンデマンド形式の動画配信とした。9月21～22日の開催期間中、初日と2日目のコアタイムでは座長も交えて質疑応答を行い、さらに9月24日まで、参加者は自由に動画を視聴することができた。参加者は合計164名で、その内訳は一般会員が104名、学生会員が48名、非会員が12名であった。

特別講演では、法政大学生命科学部応用植物科学科の鍵和田聡氏に「AIを活用した病害虫画像診断技術の開発」という演題で、農業分野における最先端のトピックをご講演いただいた。また、一般講演では合計32題の発表があり、その内訳は菌類病関連12題、ウイルス・ウイロイド病関連9題、細菌・ファイトプラズマ病関連5題、感染生理関連3題、植物保護関連3題であった。講演発表に対する質疑応答は、動画が掲載されている直ぐ下のポップアップウィンドウにてチャット形式で行われ、活発な質疑応答が随所に見られた。一昨年から始まった学生優秀発表賞には、今年度は20名のエントリーがあり、田崎光佑さん（信州大学大学院総合理工学研究科植物病理学研究室）、中村友紀さん（日本大学大学院生物資源科学研究科植物医科学研究室）、作田康平さん（東京農工大学大学院農学府細胞分子生物学研究室）、久保田諒介さん（東京農工大学大学院農学府遺伝子工学研究室）が受賞された。

一方、一般講演開催前日には、昨年を引き続き同時双方向型のオンライン形式で第16回若手の会が開催された。川上大地氏（カゴメ株式会社）、東浦智也氏（一般財団法人残留農薬研究所）、鈴木浩之氏（University of Pretoria）から研究およびキャリアについてのご講演をいただき、参加者は70名に上った。参加者から寄せられたアンケート

では、オンラインを生かした南アフリカからの中継や、博士の多様な生き方やキャリアについて、全体的に好意的な意見をいただいた。

なお、残念ながら情報交換会は今年も取り止めたが、来年こそは研究成果を発表した後で、皆で集って懇親を深めることが出来るようコロナ禍が収まっていることを祈りたい。（宍戸雅宏）

(2) 関西部会開催報告

令和3年度日本植物病理学会関西部会は、9月21日（火）午前9時から9月22日（水）午後5時までの2日間、石川県立大学を開催地としたオンライン形式で開催され、新型コロナウイルス禍にもかかわらず、例年どおりの活気ある部会となった。開催方式としては、（株）ダイナコム社のプラットフォームを利用した。当初は参加者数や発表者数の減少が懸念されたが、参加登録者数206名／発表数73題と盛会であった。総会に先立ち役員会をオンライン会議で開催し、例年の総会に代わりオンライン会場における資料の掲示という形での総会報告となったが、大きな混乱も無く、全ての議案が承認された。次期部会長には高知大学の曳地康史氏が選出された。また、次年度の部会は、高知大学の曳地氏を委員長として、高知大学朝倉キャンパスで開催されることが決定した。例年総会終了後に行われる部会長講演は、オンライン開催のため、児玉による「*Alternaria* 属菌における二次代謝産物生産に依存した病原性の進化」の講演録画を掲載する形で行われた。一般講演は、菌類病、細菌病・ファイトプラズマ病、ウイルス病・ウイロイド病、植物保護のカテゴリーに分類され、オンライン上で活発な質疑応答が交わされた。それぞれのカテゴリーの発表数は、菌類病34題、細菌病・ファイトプラズマ病16題、ウイルス病・ウイロイド病3題、植物保護20題であった。今年度は、質疑応答の終了後、さらに2日間の閲覧期間を設けた。4日間の総閲覧数は5,147、1演題あたりの平均閲覧数は70、1名あたりの平均閲覧数は25、総質問数は159、

1 演題あたりの平均質問数は2.18であった。質疑応答では、1回に複数の質問を受けたり、回答に対するさらなる質疑応答も見うけられ、実際はアクセス記録の2倍以上と推察された。オンラインでも例年と変わらない活気ある部会が開催されたことが数字の上でも明らかとなった。

今回の部会は、対面およびオンライン開催の両方について同時進行で準備が進められ、最終的にオンライン開催となったが、石川県立大学高原浩之開催地委員長をはじめとする関係各位のご尽力とご協力によって、無事成功裏に開催できた。ここに記して、心より厚く御礼申し上げたい。

(児玉基一郎)

2. 研究会開催報告

EBC 研究会ワークショップ 2021

昨年度は新型コロナウイルスの影響で、EBC研究会のワークショップは、残念ながら他の研究会と同様に開催が叶いませんでした。本年度は、ZOOMを利用した遠隔形式で令和3年9月15日にEBC研究会ワークショップ2021を開催しました。第一部は「病害防除研究の基礎と実践」として3名の先生方、第二部は「ショートトーク」として新規殺菌剤などの特徴について3名の先生方から講演をいただきました。当研究会も遠隔形式での開催は初めてのことで、不安な面も少なくありませんでしたが、演者の方々、参加者の方々、さらに全国の当研究会の運営委員のご協力で無事に開催できました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。ワークショップ2021の参加申込者は300名を超え、当日の講演時のZOOMへのアクセスは230名程度で推移していました。全国各地の職場や自宅からはもちろん、大学の教室で複数の学生さんが参加するなど参加方法も多様となりました。多くの方々に参加いただけたことは、対面とは異なり遠隔形式は移動が不要で参加しやすいという利点が発揮されたものと考え



ています。さらに、これまでと異なる点として、事前に参加者から質問を受け付けるとともに、当日はZOOMのチャット機能を利用した質問となりました。対面と異なり熱い議論はできませんでしたが、これらの質問を演者と座長との連携でラジオの質問コーナーのような進行となり、新鮮に感じていただけたかもしれません。ワークショップ後に実施したアンケートでは、「来年度も参加したいと思いますか?」との間に、「参加する」との回答が100%になるなど好評価をいただきました。また、来年度の開催形式を尋ねたところ、対面と遠隔とのハイブリッド形式への要望が70%弱でした。当研究会の運営委員は、もちろん来年度の開催に強い意欲を持っております。来年度の開催形式については議論を重ねて、開催時期の状況下でもっともワークショップらしく議論ができる開催形式を採用して、ワークショップ2022がさらに充実したものになるように取り組みます。来年度も多くの方々にご参加いただきたく、どうぞよろしくお願ひします。(篠原弘亮)

【学会活動予定】

1. 2021年度部会開催状況ならびに予定

(1) 北海道部会

日時：令和3年10月15日

場所：オンライン開催（オンライン会議ツール）

事務局：農研機構北海道農業研究センター

(2) 東北部会

日時：令和3年10月12～14日

場所：オンライン開催（オンデマンド動画配信）

事務局：宮城大学食産業学群

(3) 九州部会

日時：令和3年11月24～26日

場所：オンライン開催（オンデマンド動画配信）

事務局：農研機構九州沖縄農業研究センター

(4) 植物病原菌類談話会

日時：令和3年12月11日

場所：オンライン開催（オンライン会議ツール）

事務局：静岡県農林環境専門職大学

【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは、身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクト研究の紹介などの情報をお寄せ下さい。下記宛先まで、よろしくお願ひ申し上げます。

投稿宛先：〒114-0015 東京都北区中里 2-28-10

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX：03-5980-0282

または、下記学会ニュース編集委員へ：

藤田佳克，宮田伸一，山次康幸，宮本拓也，川部眞登

編集後記

学会ニュース第96号をお届けします。本号では秋に行われた部会や研究会の報告を中心に掲載しました。関東部会は、昨年度に引続きプラットフォーム上のWEB開催となりましたが、9月21～22日の開催期間中、初日と2日目のコアタイムでは座長も交えて質疑応答を行い、さらに9月24日まで、参加者は自由に動画を視聴できるように

しています。関西部会は、9月21日（火）から9月22日（水）までの2日間、オンライン形式で開催され、質疑応答終了後、さらに2日間の閲覧期間を設けています。EBC研究会ワークショップ2021は、ZOOMを利用した遠隔形式で開催され、300名を超える方々が参加されています。いずれもコロナ禍で対面での開催はできませんでしたが、チャット形式等を利用した活発な質疑応答や遠隔形式は移動が不要で参加しやすいという利点も発揮されたようです。

さらに、年末までの学会活動の主な予定を掲載しました。いずれの部会や談話会もコロナ禍の影響が続いており、オンラインでの開催予定となっていますが、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。（藤田佳克）
